

2016年11月21日
鳥取大学地域課題研究成果報告会

地域運営組織にワークショップを活かす！ —新しいコミュニティづくりに向けて—

鳥取大学地域学部地域政策学科
准教授 筒井 一伸

自己紹介

★宮口侗迪・木下勇・佐久間康富・筒井一伸編著
『若者と地域をつくる』
(原書房, 2010年8月)



★小田切徳美・筒井一伸編
『田園回帰の過去・現在・未来』(農文協,
2016年2月)

★筒井一伸・嵩和雄・佐久間康富『移住者の地域起業による農山村再生』
(筑波書房, 2014年9月)



今日、お伝えしたいこと

☆「**地域運営組織**」をめぐる現況

☆なぜ**ワークショップ**が必要か??

☆大学生と地域運営組織との協働**ワークショップ**
から見えてきた地域と大学の連携の**ステップ**

☆ワカモノと地域を創る—その**注意点**—

3

「地域運営組織」をめぐる現況

◆「小さな拠点」の形成（まち・ひと・しごと創生基本方針2015）

- ①地域住民による集落生活圏の将来像の合意形成
- ◎**ワークショップ**を通じた地域住民による将来ビジョン（「**地域デザイン**」）の策定
- ②地域の課題解決のための持続的な取組体制の確立
- ◎**地域運営組織**の形成及び持続的な運営
- ③地域で暮らしていける生活サービスの維持・確保
- ◎生活サービスの集約・確保やネットワークの維持等の推進

4

なぜワークショップが必要か??

★変わるコミュニティ

◎既存の地縁組織（集落・自治会・町内会など）

- 世帯を基本単位（ニイ工連合）
- 合意形成…一戸一票制＝男性世帯主が一票を行使
- 地域を維持する活動＝「守りの自治」が中心

▼定められた地域内（空間領域）での人材減少

⇒「人の空洞化」から「むらの空洞化」へ

小田切徳美（2009）『農山村再生—「限界集落」問題を越えて—』岩波書店。

5

なぜワークショップが必要か??

★新しいコミュニティへの期待

◎地域運営組織（まちづくり協議会、NPOなど）

- 自治組織であると同時に経済活動も行う組織
⇒生活の上に成り立つ経済活動＝なりわいづくり（起業・継業）や農山村の六次産業化の主体
- 革新性＝既存の地縁組織とは異なるあり方を意識
⇒地域の女性や若者、そして外部人材（移住者など）の積極的参加。「攻めの自治」。
⇒新たな合意形成の方法の必要性。

小田切徳美（2009）『農山村再生—「限界集落」問題を越えて—』岩波書店。

6

「地域運営組織」をめぐる誤解

◎地域運営組織（まちづくり協議会，NPOなど）

- 地縁組織との補完関係
⇒「自治会orまち協」の二者択一ではなく「自治会&まち協」で役割分担の明確化
- 活動内容の「総合性」＝地域づくりの基本
⇒地域に必要なことを少しずつ上乗せしていく
「段階的総合性」⇒取捨選択の合意形成

小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を超えて－』岩波書店。

7

大学生と地域運営組織との 協働ワークショップ

- ◆地域政策学科における農山村地域を対象にした「地域づくり」を学ぶカリキュラムの一環（筒井が担当）。
1年生：地域計画論（必修/オムニバス）⇒入門編
2年生：農村地域論（選択必修）⇒基礎編
3年生：むらおこし論（選択）⇒応用・実践編
※これ以外に「地域づくりインターン」（インターンシップ（選択）として単位化）も実践編として展開
- ◆むらおこし論は2006年に開講。時間割上は前期科目であるが、前期の準備、夏季休業中の実践（主として4日程度のWSの展開）、後期のとりまとめ、冬季休業中の現地報告会と、1年間の活動として展開。

8

大学生と地域運営組織との 協働ワークショップ

◆地域運営組織と行ってきたワークショップ（WS）

◎発案型WS

（インターネットによる魅力発信／2014年）



◎記録型WS

（食文化の記録／2012年）



◎実習型WS

（集落食堂計画／2013年）



◎ゲーム型WS

（未来の担い手を考える／2016年）



9

大学生と地域運営組織との 協働ワークショップ

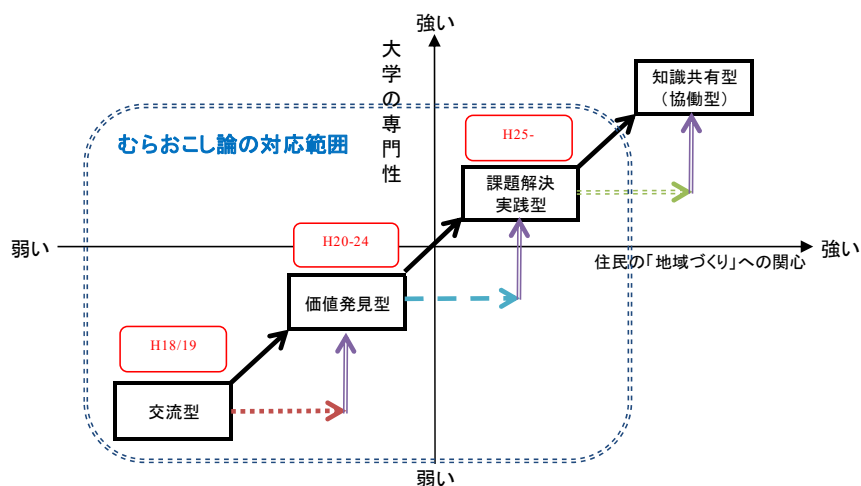


図 「むらおこし論」における
学生中心の日南町大宮地区・鳥取大学連携

10

大学生と地域運営組織との 協働ワークショップ

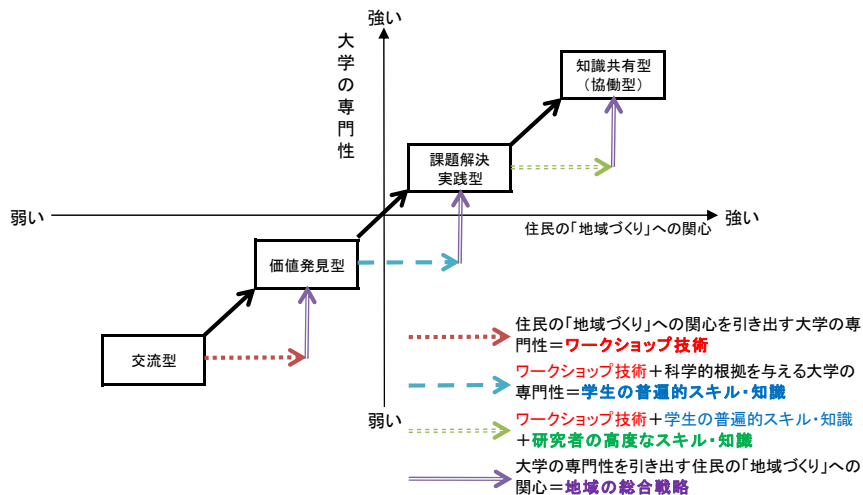


図 「むらおこし論」の経験からみる
学生中心の地域・大学連携に求められる大学の専門性

ワカモノと地域を創る—その注意点—

◆その勘所—まとめにかえて—

ワカモノは万能スーパーマンではない。×過度の期待
ワカモノは使い勝手のいい労働力ではない。×無責任
ワカモノは活動に対する満足度にシビア。×無責任

【ポイント】

★「ワカモノ **が** 地域を創る」のではなく、「ワカモノ **と** 地域を創る」という姿勢が重要。

★課題を**解決**できるのは、

課題を**抱えている人（地域）のみ！**